

京都嵯峨伏見上鳥羽下鳥羽たんのの上せり川中島塔森横大路車共、大津其外何方にて荷物積候共、違亂申間敷候、若難澀申者於有之は、此方へ召連可參候也。

寅極月○慶長十九年七日

板伊賀○勝判重判

右車遣

〔撰要集〕乍恐以書付奉申上候

一芝車町牛持共先祖之儀、寛永十三<sub>子</sub>年中、御普請御用に付、京都より御呼下シニ相成、市ヶ谷八幡前ニ而、四丁餘之所、牛小屋場に被仰付、御材木御石等運送仕、御用無滞相仕舞候ニ付、京都江罷歸申度段、其節御普請御掛柳生但馬守様江、御窺申上候得共、寛永十六<sub>卯</sub>年中、御評定所江被召出被仰渡候者、御當地ニ牛車御留被置候ニ付、居屋敷可被下旨、乍恐大猷院殿<sub>家光</sub>御上意有之、居屋敷望候様、被仰渡候、依之、只今住居仕候場所見立奉願上候得者、同年十一月、中寺社御奉行安藤右京亮様、松平出雲守様、町御奉行神尾備前守様、朝倉石見守様、御役名不知庄田小左衛門様、會根源左衛門様、朝比奈源六様、御立合之上、下高輪ニ而、四丁餘之所、被下置、夫より芝車町と相唱、是迄代々家業相續仕罷在候儀ニ御座候<sub>略</sub>○中

一諸國牛車有之候場所御尋ニ付、取調候所、左之通ニ御座候。

一京都

但伏見并東海道大津宿ニも有之候得共、何れも京都江罷出、渡世仕候由ニ御座候、右牛車

之儀者、古來上方表ニ而、御軍用ニも相成候由、牛持共古キ書留ニ相見申候。

一駿府

一奥州仙臺

但仙臺之儀者、貞享年中、日光御普請之砌、松平陸奥守様江御手傳被仰付候節、車町牛持共